

北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議（第23回）開催結果概要

1 日時

平成23年7月19日（火）14:00～16:45

2 場所

PCB処理情報センター（室蘭市御崎町1丁目9番地8）

3 出席者

監視円卓会議委員、登別市、伊達市、環境省、日本環境安全事業株式会社
事務局（北海道、室蘭市）

傍聴者：16名 報道：2社（室蘭民報社、北海道新聞）

4 内容

- (1) 第22回監視円卓会議議事録について
- (2) 北海道事業の進捗状況等について
- (3) 環境モニタリング測定結果等について
- (4) 増設事業について
- (5) その他

5 議事概要

議事に先立ち、委員の互選により眞柄委員が委員長に選出され、副委員長に吉田英樹委員を指名した。

- (1) 第22回監視円卓会議議事録について

監視円卓会議として承認。

- (2) 北海道事業の進捗状況等について

日本環境安全事業株式会社から、資料2-1～資料2-5に基づき説明。

- ・北九州事業所ではPCB汚染物処理施設2期施設の2号炉が完成し、試運転を経て年明けには正式に稼働する予定。東京事業所では7月から5%節電が求められているが、操業には大きな影響はない模様。
- ・北海道事業所における処理状況は、平成23年6月末現在、JESCO登録数ベースでトランス類で32.4%、コンデンサ類で28.6%が処理済み。
- ・トラブル事象の報告では、3月発生分2件と5月発生分1件の概要を説明。
- ・平成18年12月に北海道・室蘭市との協議・承認により策定された北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理施設に係る受入基準の変更予定について説明（搬入経路の追加、液漏れ機器に対応した具体の運搬方法の追加、大型機器に対応した運搬容器寸法の変更）。

主な質疑等は以下のとおり。

(委員長)

3月21日発生 of トラブル事象の内容がよく分からないので、もう一度説明してください。

(JESCO)

内容について再度説明。

(委員)

洗浄カゴを吊り上げる時に洗浄液の漏洩がないことを確認する手順はないのか。

(JESCO)

ビデオカメラを付けており、その状況を確認するようにしている。

(委員)

トラブル事象の主な発生原因として、技術的な問題よりも人的な問題、作業員の練度低下や作業員の管理自体が上手くいっていないことではないのか。

(JESCO)

次回までに作業員の採用・退職の状況、配置の状況などの資料について提出したい。

これまででは、トラブル事象が起こる度に作業要領書の作成や見直しを行い、作業員への教育などを徹底してきているが、その状況についてもお知らせしたい。

(3) 環境モニタリング測定結果等について

事務局から資料3-1、資料3-2及び資料3-4に基づき、JESCOから資料3-3に基づき説明。

- ・平成22年度の環境モニタリング結果では、環境基準値等や排出管理目標値を超過した事例はない。
- ・平成23年度の立入検査件数は3件あり、そのうち1件は不具合事象であるが、その原因と対応の状況から判断して実施。
- ・平成21年度に排出管理目標値と同値のダイオキシン類が測定(0.1ng-TEQ/m³N)された第1系統排気は、これまでのJESCOの自主測定と道とのクロスチェック結果では、いずれも排出管理目標値を大きく下回る結果。

(副委員長)

自主測定のPCBとダイオキシン類の測定値については、今後のデータ活用を視野に入れて、引き続き、データの蓄積に努めていただきたい。

(委員)

第1系統排気のダイオキシン類が問題となった時、JESCOの測定と道の測定を同時に行えばよいのではとの意見を申し上げたが、それは実施しているのか。

(JESCO)

サンプリングの関係で同一位置での測定は実施していないが、クロスチェックということで、同一の時間帯での測定を実施している。

なお、今年度も7月に実施を予定している。

(4) 増設事業について

日本環境安全事業株式会社から資料4-1、資料4-2に基づき説明。

- ・オンラインモニタリングの当初施設と増設施設の比較、スラグ・固形物の搬出ルート及びサンプリング、漏洩対策等について説明。
- ・東日本大震災に関連して当初施設及び増設施設の安全性を検討した結果、配管の損傷や海水侵入により少量のPCBの外部流出の可能性があったため、遮断弁の設置などの追加の安全措置を検討する。

主な質疑等は以下のとおり。

(委員長)

固形物の処理において、重金属不溶化処理とあるが具体的にどのような方法か。

また、その処理では水を使わないのか。

(JESCO)

キレート剤による処理を考えている。

当該固形物を団子状にする程度の加湿は行う。

(委員長)

固化物の処分はどの様にするのか。

(JESCO)

有効利用を基本に考えているが、その方法がない場合は産業廃棄物として処分する。

(委員長)

資料では固化物を搬送する大きなトラックの写真が写っているが、どの程度の量が排出されるのか。

(JESCO)

一日当たり判定待ちホッパ1つ分、1~2トンぐらいを想定しているが、実際に搬送する量としては、重金属不溶化処理後にバンカで保管されているものとなる。

(委員長)

排出されたスラグは、いろいろと議論がある環境庁告示第13号に基づく溶出試験後、外部へ搬出されるが、搬出先の環境に対する影響はないのか。

(環境省)

JESCOからスラグ利用の想定を聞いた上で、環境庁告示第13号に基づく溶出

試験で妥当かどうか検討を行いたい。

(委員長)

北九州事業における大型容器搬入品の作業状況はどの様なものか。

(J E S C O)

大きな容器に入ってきたものを仕分けして、ドラム缶に詰め直しするのが主な作業となり、資料にある増設施設の場合と同様である。

(委員長)

増設施設でのプッシュプル排気装置とはどの様な役割なのか。

(J E S C O)

容器を開けた時に内部で液漏れなどあった場合、作業員への曝露を防ぐため、容器の上流側で作業を行い、換気の流れ方向が下流側になる様にしている。

(委員長)

オンラインモニタリングについて、増設施設では施設のどの部分がどの系統としてまとめられて、どこでモニタリングするのかがこの資料ではよく分からない。

(J E S C O)

あらためて分かりやすい資料を作って、次回説明させていただきたい。

(委員)

資料4-2では説明がなかったが、異常時の安全対策としては、自動停止する設備と動かしつづける設備に区分されていると思うが、設備稼働には電源確保が必要となるがその対策について教えて欲しい。

(J E S C O)

今回の大規模災害時の検討の前提としては、通常の異常時における安全対策を超えた場合を想定していたため説明は行わなかったが、一般的な異常時の安全対策における設備区分や対策については定められている。

(委員長)

地下水汚染防止の法律が改正になり、いろいろな施設について構造基準を定めることになっている。増設施設の設計において、国が決めようとしている構造基準についても参考にさせていただきたい。

(委員)

室蘭市の地域防災計画について資料に記載されていたが、この計画の津波対策の見直しを早く行っていただきたいが、室蘭市はどの様に考えているか。

(室蘭市)

東日本大震災を踏まえて、現在、道が津波浸水予測の見直しを行っていることから、その見直しの内容を踏まえて、室蘭市もできるだけ早く見直しを行いたい。

(委員)

説明の中で風評被害が出た場合は国で補償するとのことだったが、口頭ではなく文書にしてもらうことにならないか。

また、津波の話が出ていたが、大規模災害時の安全性検討の説明内容では、自分自身は納得していない部分が多くあるが、そのことについてどう考えるのか。

(委員)

最近の北大調査で噴火湾で5mの津波の痕跡が確認されていることもあり、安全性の検討をもう一度しっかりと実施して欲しい。また、説明の際には、詳細な図面についても提出していただきたい。

(5) その他

事務局から、7月27日に予定している監視円卓会議による北海道PCB廃棄物処理施設への立入についてのお知らせと、次回の監視円卓会議の開催時期(10月)について説明。